令和５年度「学生と学長との対話」概要

本学では令和２年度から「学生と学長・副学長との対話」を実施し、学長及び副学長が学生の生の声を直接聞き、学修環境や学生生活など様々な改善に取り組んで参りました。令和４年度においては「富山大学をさらに魅力ある大学にするために」をテーマに学生との対話を深め、本学の強みを再確認しました。

令和５年度も学生の意見を大学運営に反映し本学の教育の質向上を図るため「学生と学長との対話」を実施しました。今年度は、令和４年度に実施した「学生と学長との対話」において出された学生の意見を踏まえ、学生同士の交流の機会を提供しつつ、学長と忌憚のない意見交換を行いました。

その概要について取りまとめましたので、公表いたします。

また、当日及び終了後に実施したアンケートで寄せられた学生からの意見や提案について、大学からの回答は以下の一覧のとおりです。

令和５年度「学生と学長との対話」質問要望への回答一覧　（学内限定）

令和５年度　学生と学長の対話―学生交流会―

日　時：令和５年 10 月 11 日（水）13：30　～　15：50

会　場：共通教育棟　B21 番教室

参加者：学生（30 名）、齋藤学長

陪席者：磯部理事・副学長、武山理事・副学長

内　容：

１．各学部学生と留学生のスピーチ【60 分】

＜スピーチのテーマ＞

学部学生：各学部の魅力や強み　　留学生：自国や富山大学の体験

（１人 5～6 分）

２．学長との対話・意見交換　【45 分】

１．スピーチ

発表順	学部	学年	概要 （学部学生）各学部の魅力や強み （留学生）自国や富山大学の体験
①	人文学部	3	・特徴的な授業（８コース 21 分野）があり、専門分野を横断的に学ぶことができる。１年前期に全分野の授業を受けてからコースを選択することができる。自分の所属コースに限らず、興味のある授業を受けることができる。 ・教員 1 人当たりの学生数が少なく、学生 1 人ひとりを丁寧に指導していただける。フィールドワークにおいても、質問や相談の時間を充分に確保されているため、不安や疑問を残すことなく進めていくことができている。
②	人間発達科学部	3	・教職に関する実践的な活動（学校インターンシップ、子どもとのふれあい体験など）が豊富である。 ・将来に繋がる学びができる。例えば、特別支援教育について学んだことで障害への理解を深め得た。子どもの発達や児童福祉について学ぶことは将来の子育てに役立てることができる。
③	経済学部	3	・幅広い社会科学（経済、経営、法律）を学ぶことができる。 ・手厚い教授陣 ・様々な社会科学の分野を組み合わせた課題解決能力を養うことができる。
④	理学部	3	・サイエンスフェスティバル（子どもたちに実験など体験してもらうイベント）がある。 ・普段はアカデミックな内容をインプットする授業が多いが、イベントを通して、難しい原理を簡単に説明する力を身に付けることができる。 ・イベントを通して学年、学科を超えた交流が盛んになる。
⑤	医学部	4	【医学科】 ・基礎配属（３年次に１か月間研究室に所属して研究の手技を学ぶ。臨床系の内容に触れられる研究室もある。） ・研究医養成プログラム（１、２年次から興味のある研究ができる。薬学部生と関わることができる。） ・縦割り制度（先輩や教授の話を聞くことができる。他学年と交流できる機会がある。） 【看護学科】 ・選択科目に東洋医学があり、興味がある人は和漢医薬学について勉強できる。 ・グループワークの機会が多く、看護の技術やあり方などを相談したり、教え合ったり、考えたりできる。 ・教員に卒業生が多く、授業以外に仕事のことや、職場の雰囲気を知ることができる。 ・附属病院の医師から臨床の授業を受けられる。 【杉谷キャンパス全体】 ・医学部と薬学部が同じキャンパスにあるため、合同授業や部活動を通して他学部と知り合う機会があり、お互いに何を勉強しているのか、考え方・価値観の違いを知ることができる。また、コミュニケーションのやり方を学ぶことができる。
⑥	薬学部	6	・医学部と薬学部合同のキャンパス（全国で 8 大学しかない）である。特に部活動を通して交流ができる。 ・３年次から研究を行う。研究室には薬学科と創薬科学科の学生がいるため、有意義なディスカッションができる。また、他大学より研究室が豊富にある。 ・漢方について専門的に学ぶことができる和漢薬コースがある。 ・生薬に関する授業が多い。
⑦	工学部	2	・機械工学コースに所属しているが、機械のことだけでなく電子回路など多岐にわたる専門的な内容を学習できる。大規模な実験装置を用いて実験を行うなど、実際に機械に触れることができる。 ・ロボコンプロジェクトに所属して、授業で学ぶこと以上に、専門知識を身につけることができる。理系女子を増やすことに力を入れている。

⑧	芸術文化学部	3	・５つの領域がある。実務を経験している教員が多い。 ・地域がキャンパスになっている。地域の職人や企業の方と一緒にプロジェクトを進める授業がある。授業が終わっても関わることができ、地域と共同して学びを得ることができる環境にある。 ・授業外の活動も充実しているので、自分で探求したいと思えばどれだけでも追求することができる。
⑨	都市デザイン学部	4	・富山県の土地を活かした学習が多く、座学だけではなく富山県というフィールドでの学びを経験できる。 ・グループワークの授業が多い。３年次の授業では実際の課題に対して企業、県、地域の方と協力して課題解決を行う。これによって、コミュニケーション能力や論理的思考力を養うことができ、将来の就職試験の練習の場にもなる。 ・都市の課題について解決案をデザインする学部であり、その過程で得られる経験や思考が学部の強みとなる。
⑩	人間発達科学部	3	・マレーシアの準備学校で日本語の学習が難しく、あきらめようと思った時もあった。 ・日本に来る前、日本語力が十分でなくとても不安であったが、富山に着いた時、温かく迎えてもらい、２年間でたくさんの先生や友達と出会うことができた。 ・富山大学で、学生や教員が協力し合い、学問的な成果や人間的な成長を達成するためにお互いに支え合うというコミュニティを見ることができた。 ・マレーシアと富山大学それぞれで人間的、学問的な成長ができた。
⑪	経済学部	1	・来日前は、インターネットを通じて、自分は日本の文化のことを理解していると思っていたが甘かった。来日後は、様々なトラブルがあり、不安を感じて帰国したいという気持ちも生じた。 ・日本人は、とても細かなことに気づいてくれる。 ・「お願いします」「ありがとうございます」「いただきます」などいつも感謝の言葉を伝えている。
⑫	芸術文化学部	3	・ブラジル社会ではコミュニケーション能力が高まる。それは、上下関係をあまり意識せず、皆が友達という意識が高く陽気で話しやすいからである。ブラジルは多文化で、技術は日本よりも劣るが代わりに大事なことを気づかせてもらえる環境である。 ・富山大学では、１年次に五福キャンパスで学ぶので様々な学部、留学生と触れ合う機会となった。「きっときと」な富山県を知る・楽しむことを体験した。 ・２年目以降は、高岡キャンパスでの学修となり、地域をキャンパスとして活動することで、今まで気づかなかった世の中を細かく見てより良い未来をつくるための活動ができることを体験できて良かった。

２．学長との対話・意見交換

他学部との交流、全学横断 PBL

●学長
　富山大学は総合大学で９学部もあるので、どんどん学部の壁を超えたつながり持ってほしいと思っていますが、できているでしょうか？

〇学生（経済学部３年）
　まず１年生の時点で学部を超えて関わることができる環境を作って、それを踏まえて、後ろの学年に続いていく環境を持続的に作っていくことが大事だと思います。１年生で教養教育が終わってしまうので、その後は同じ学部だけで固まってしまう学生が多いと思います。

●学長
　３年次に「全学横断 PBL」の授業を行っていますが、参加者はほとんど都市デザイン学部の学生です。だから、本当は９学部の学生が全部集まってほしいと思っています。１年生では、まだ専門性が薄いですが、３年生になったらそれぞれの学部で学んだ専門性が身に付くので、みんなが集まって課題を解決することができます。実社会に出て皆さんが働くようになったら、自然とそのような環境におかれるので、そのトレーニングをしたいと思っています。しかし、全学部から参加していないようなので残念に思っています。
　学生の皆さんに、このような思いが伝わっていないのか、それとも、授業やサークル活動があって、参加が難しいということなのでしょうか。

〇学生（人文学部３年）
　３年生になったら就職活動があり、サークル、卒論もあり、そういうものが障害になると思います。２年の後期であれば参加しやすいかもしれません。

〇学生（芸術文化学部４年）
　学長は「総合大学」を目指していると言っていますが、高岡キャンパスの専門科目も五福キャンパスで行うようになっています。その点においては、得意分野を活かしたり、個性を伸ばしたりすることと相反している感じがします。学生の移動を最初にするのではなく、工芸ができる充分な施設を五福キャンパスに用意してから高岡キャンパスの学生の移動があった方が良いと思います。

〇学生（芸術文化学部４年）
　高岡キャンパスの学生は、１年生で五福で１人暮らしをして、２年生から高岡で１人暮らしをすることになり、２回引っ越しをすることに悩んでいる人達が多い。そのことに対する助けや保証は無いのでしょうか。

●学長
　欧米の総合大学や日本の大学でもキャンパスが別の大学はたくさんあります。それでも総合大学として色々な形で学生が連携しています。高岡は１時間ぐらいかかりますが、移動できない距離ではないと思います。杉谷と五福の距離は近いと思っています。だからこそ、もう少し交流を深めてほしいと思っています。
　今までは、高岡に行ったり五福に行ったり、１年生の時にあっちこっち行って、とても不便をかけていましたが、五福キャンパスに教養教育を一元化したので学生は移動せずに済むようになりました。学生が 100 名移動するのは大変ですが、教員が１人移動することは比較的簡単なので教員が移動するようお願いしています。まだ不十分なところがあるのかもしれませんが、１年では全員五福キャンパスでコミュニケーションを広げていただいて、２年生になってからそれぞれのキャンパスで専門的なことを深めてほしい。ただ、それでおしまいではなく、やはりもう少し様々な分野で交流を深めてほしいと思っています。全学横断 PBL は 3 年生では時期的に遅いという意見があったので、２年生の終盤がいいのか他の学年がいいのか、時期的なことを考えないといけないと思います。

〇学生（芸術文化学部４年）
　総合大学として高学年になってからもキャンパスと交流を持ってほしいということですが、来年度からのシャトルバスの廃止は大きなダメージになると思います。芸術文化学部の学生の声が届いているのでしょうか。予算の関係もあると思うので、シャトルバスではないにしろ、何かサポート体制について今後考えられていることがあるのでしょうか。

●学長
　シャトルバス廃止後もイベントがあるときはバスを出します。また、大型のバスは使い勝手が悪いので、中型程度のバスの購入を検討しています。
　また、無理にお願いはできませんが、マイカーをシェアするという方法もできればお願いしたい。車を持つことは、経済的負担も大きいため、持っていない学生はカーシェアをする形で取り組んでいただきたいと思っています。
　富山は、車がないと不便な場所もあります。ウィークエンドの時は、できるだけ行動範囲を広げてもらって、富山のいろんなところに行っていただきたいと思います。ただ、経済的なことがあるので、必ず車を準備してくださいと言えるわけではないですが、行動半径を広げてほしいと思っています。
　シャトルバス廃止については、非常に利用率が低かったという状況があります。１回の運行で１人や２人しか乗車していない時もあり、そのデータを見たら廃止をせざるを得ない状況でした。

〇学生（人文学部２年）
　学長は、総合大学として全学部の繋がりが欲しいという話をされていたと思います。その解決策の１つとして全学横断 PBL があると思いますが、PBL は課題解決型なのか、それとも発見型なのでしょうか。

●学長
　課題解決型です。例えば 10 人ぐらいで１つのテーマを与えて、そこにチューター教員がつきます。その中でどういう解決策があるかを相談します。理想は、９学部の学生が１人ずつ９人ぐらいになるのが１番良いです。色々な分野から意見を戦わせて、それでひとつのものを作っていくというふうにトレーニングしたいと思っています。社会に出たら、色々な立場の人がいて、１つの会社でも様々な部署があります。自分はこうしたいと言っても、すぐにできません。色々な人を巻き込んでプロジェクトを立ちあげます。それで色々な分野の人の話を聞きながら、提案が通って行きます。そのためには、プレゼンテーション力も重要です。スライドを作って分かりやすく説明し、なるほどと思われないといけません。やってみてうまくいけば良いですが、必ずしもうまくいかないかもしれない。結構、失敗することもあるでしょう。しかし、失敗した時にどうするのかということもあわせて課題解決を行うというのが本来の姿です。

〇学生（人文学部２年）
　個人的に思ったことは、解決の部分よりも発見の部分でそれぞれの分野の視点が必要になってくると感じています。世の中に出回っている課題は大変抽象度が高いと感じています。例えば、少子高齢化をどうするかは、大変抽象度が高いと思います。では、その抽象度の高い課題をどれだけ具体的なものに落とし込めるかという時に、９学部それぞれの視点が織り交ぜあって、面白いものができて、それを解決していくというところに、学問とか知見が役に立つと感じました。
　解決の前の発見というところも全部一緒にできると、よりそれぞれの視点を生かして、また、グループワークで交流も生まれるので、学長が目指しておられるような姿に近づけるのではないかと感じました。

●学長
　そのようなことを義務的にやらされるのではなく、自分たちで自主性を持って、楽しんで学生生活を送ってほしいと思っています。

〇学生（人文学部３年）
　学長のリーダーを育てたいという話について、私たちは高校まで、学力を向上させるよう教育を受けていましたが、大学で「色々なことができます」「リーダーシップを育てる準備があります」

といった環境が整えられていたとしても、学生は、高校までの考え方が残ってしまっているように感じます。そのため、その考え方や意識を変えることに力を入れていった方が、結果的に大学が育てたい力にもつながっていくのではないかと思いました。

●学長
　今、小学校の教育も変わってきていて、その子どもたちが大学に入学する頃は変わっているかもしれません。時代が変わっているということを、君たちに認識して欲しいと思います。今日参加した皆さんにとって、１つの大きなメリットは、時代が変化しているということを感じてくれたことだと思います。勉強は与えられるものではなく、自分で勝ち取っていくものです。自分で一所懸命やったことは忘れません。テストには出ないかもしれないけれど、将来世の中に出た時にその経験が役に立ちます。私がお願いしたいことは、すべての分野で 100 点を取る必要はないですが、自分が面白いと思ったことは、100 点をとれるようにどんどん勉強してほしいと思っています。この分野だったら、この人に聞けと言われるような、勉強の仕方もあるのではないかと思います。

学長から学生への発信、学生からの意見集約

〇学生（人文学部３年）
　今までの話で、学部横断とか、どうしたら新しいことをやっていけるかという話が出ていたと思います、逆に、今、どんどん新しいことをやるよりも今あるものをもっと充実させたり、今不十分なものをより良くしたりしていくことが必要ではないかと思います。
　学生や教員に対して、今どういうことが課題で、どういうものが負担になっているかということを全部把握した上で、新しいことを考えていく必要があると思います。
　例えば、３年生は忙しいのに新しいことをやっても、学生が参加してくれないという状況になります。学生の意見や雰囲気が伝わっていないと思います。

●学長
　大学の意向は、部局長や評議員といったトップの教員には伝えていますが、今の意見を聞いて、末端まで伝わっていないということだと理解しました。だから、学長の考えや教育はこうなりましたということを学生に見てもらえるようなサイトを作ります。その代わり、学生たちもしっかり見てほしい。自分たちの教育がどうなのかということを全くわからずに、ただ受動的にすべてお任せという姿勢は止めて、積極的に様々なことを勉強しにいくという姿勢をとってほしい。

〇学生（人文学部３年）
　意見を出す場を作ってほしい。「学生と学長の対話」の場では、ここにいるメンバーだけに限られます。また、時間がなくてその場で言えなかったことを、しっかり考えた上で意見を出したい。しっかり考えなければ、なかなか意見を取り入れてもらえないと思うので、「学生と学長の対話」以外で用意してほしいと思います。

●磯部理事・副学長
　皆さんの意見を集約できるメールアドレスのようなものを作ったほうが良いのかもしれないと考えます。大学全体として、目安箱のようなものを考えていきたいと思います。

〇学生（経済学部４年）
　学長がおっしゃっているプログラムなどの周知がされていないと思います。

●学長
　皆さんは、カリキュラムを選択する時に、必要最低限の単位のみを取得しようと思っていないでしょうか。それを否定はしないけれど、もったいないと思います。総合大学では、いろいろな分野の授業が開講されています。それを勉強できることは財産だと思います。自分のためになるのでぜひ活用してほしい。

その他意見・要望

〇学生（経済学部３年）
　どの学部の教員がどのような研究をされているかデータベースなどで見やすくなればいいと思います。

●学長
　それに対応したシステムを入れたので、見ることができます。
　　富山大学研究者プロファイル　https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/

〇学生（医学部４年）
　杉谷キャンパスでは車で通っている学生がたくさんいますが、駐車場が足りていません。シャトルバスを廃止したとしても、学生が利用しやすい駐車場を少しでも増やしてもらえたら、キャンパス間の移動が楽になるのではないでしょうか。

●学長
　杉谷キャンパスについては、これまでも学生に駐車場を使わせるように指示をしてきました。学生にとって不便があるのであれば、ある程度車で来られるような環境を整えてあげなければいけないと思っています。杉谷キャンパスの事情もあると思いますので、どうしたら良いのか相談したいと思います。

〇学生（人文学部３年）
　データサイエンスのことについて、教養の授業で情報処理が必修で、そのほか応用情報処理の授業があります。でも、履修できる授業が不十分だと感じています。情報処理は簡単なことか、みんな知っているようなことしかなく、学ぶ意味があるのか、このレベルなのかなと感じる部分があるので見直して欲しい。

●学長
　その対応として、経済学部に寄附講座を作って授業を行っています。企業や自治体が課題を持ってきて、それを学生と教員が一緒になってデータを活用した課題解決を行います。選択科目で単位認定があるので、是非とも参加してほしい。この授業では、グループで行ったことを発表しプレゼンを行っています。企業の方も参加していただいているので、ただ発表するだけでなく、内容への批評もしていただいています。
　また、各学部に対しては、もっと上のレベルで、AI も含めて講義をしてほしいと依頼しています。

●磯部理事・副学長
　数理・データサイエンス・AI プログラムは、各学部でプログラムが定められています。難易度に合わせてプログラムが設定されています。

〇学生（人文学部３年）
　人文学部では、水道などの設備が少し古い。大丈夫なのでしょうか。

●学長
　状況を確認します。

〇学生（経済学部４年）
　富山大学の交換留学の制度を利用して１年間交換留学に行ってきました。事前に、留学先の大学では、チューターがつくので手続きなどはチューターに聞けば良いと言われていましたが、実際に行ってみたらチューターの人が１人もつかず、富山大学で受けていた説明と違っていました。

●学長
　特に、協定校の場合は、しっかりやってもらうように伝えます。また、意見をお寄せください。

〇学生（経済学部３年・留学生）
(1)富山大学に出願する時に、すべて紙で不便でした。
(2)交換留学生からアクティブメールが使いづらいという意見を聞いています。アプリのようなものに改善して欲しい。
(3)英語学習システムで、同じ例文がリスニングも読解の時も何回も出てくるので覚えてしまって、練習にならないので改善してほしいです。それから、簡単すぎるので、留学したいと言っている先輩も勉強にならず自分で YouTube を見て学習しています。

●学長
(1)出願は、インターネットでできるように対応した。
(2)(3)状況を確認します。

〇学生（経済学部３年）
Moodle が混雑する時にアクセスできないことがあります。特に、夜に起こることがあり、そのためにレポートを出せずに単位を落とした友達がいます。moodle のサーバーをもう少し強化していただきたい。

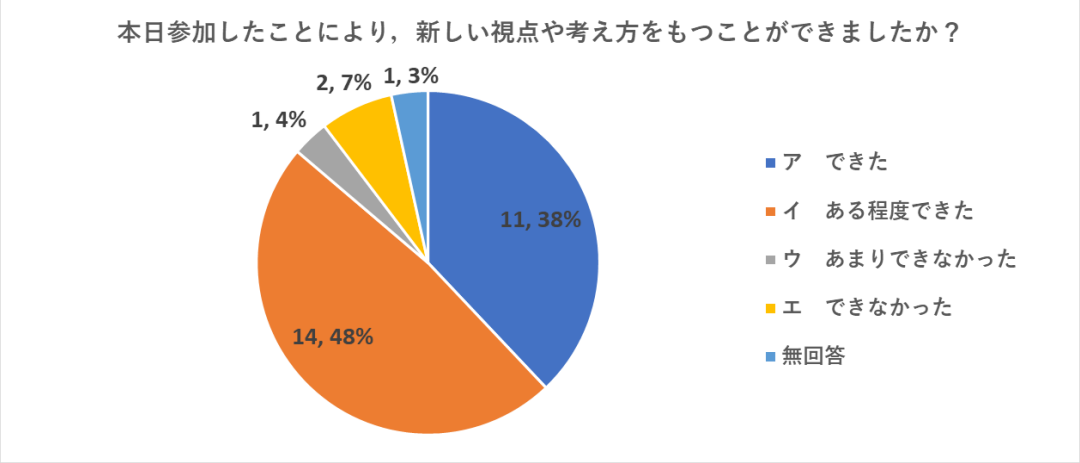
●磯部理事・副学長
大学の予算も限られているので、どういう問題があるのかも含めて、専門の部署に確認します。

〇学生（経済学部３年）
経済学部棟で、夜でも勉強できる環境が欲しい。人文学部生は夜も人文学部棟に入れるが、経済学部は締まってしまうので入れるようにしていただきたい。

●磯部理事・副学長
学部の方針によって、ある学部は 21 時まで、ある学部は 22 時までと異なっています。これまでの事情もあり、今すぐに対応について回答できませんが、本日、意見を聞きましたので、全学としてどのような環境を皆さんにご提示できるのかを考えたいと思います。

●学長
図書館の開館時間は長くしてもらいました。学生の皆さんが勉強したいという時にその環境をつくってあげるのが学長の務めだと思っています。予算も必要なので、予算を確保した上で、環境を整え、皆さんに学生生活を過ごしてもらいたいと思っています。

３．アンケート結果



以下は、終了後に実施したアンケートに記載された「感想」及び「今後，学生と学長の対話で実施してほしい企画や取り上げてほしいテーマ」の一部です。アンケートで寄せられた質問、要望、意見については、後日、可能な範囲で大学から回答をお知らせいたします。

＜感想＞
・堂々と活発に意見を言える人が思っていたよりも多くて驚きました。
・他の学部からの学生たちのスピーチを聞いて各学部の強みと魅力点を知ってとても面白かったです。
・私は、自分の学部についてしか知らなかったので、色々な人の状況ややっていることを知ることができてとても良かったです。今日の経験を活かして、自分の学びを深めて行こうと思いました。
・大学側が用意している様々な制度を生徒全員が知り、活用していけるようになれば良いかなと思いました。
・伝えたいことを全部伝えられなかった。
・今まで総合大学であることへのメリットをいかせていなかったので、これからは積極的に取り組みたいです。このような話を聞けることはなかったので、とてもためになった。
・他学科の方が普段どんなことをしているのか、ほとんど知らなかったので、良い機会でした。
・他学部の学んでいることや、特徴など知らないことも多かったため、知れる良い機会となったなと思いました。
・各学部それぞれの意見があり、非常に有意義だった。
・スピーチの時間よりも、意見交換の時間がもっと多くほしかったです。
・人数が多いため全学部の意見が吸い上げられていないように感じました。
・各学部の特徴はもちろん、現在、各キャンパスで見られる問題を共有しあい、状況の把握ができて良かった。また、学校側の持つ問題や状況も知ることができ今後の未来創造に必要な意見が聞けて良かった。
・学生が意見を話している途中で、話を遮り返答している場面があったと思います。対話という貴重な機会であるため、最後まで聞いてから返答をしてほしいと思いました。

＜今後，学生と学長の対話で実施してほしい企画や取り上げてほしいテーマ＞
・課題発見型グループワークを学長や理事の方々を含めて行ってみたいです。
・他学部の学生との日々の交流の頻度や内容について
・質疑応答の時間をもう少し長くしても良いと思いました。
・もう少し、グループを細かくしてほしい。30 対 1 だと話しにくい。
・このように交流できる機会を増やしてほしいです。
・イベント等で交流を盛んに取り扱ってほしいです。
・意見箱を作成し、その意見への回答（インタビュー形式など）
・今回のテーマと同じようなことをより深掘りしたいです。
・グループディスカッションができる時間があれば、より良いアイデア（大学改善）を出せるのではないかと思いました。また、選ばれた代表者だけではなく、他の学生も参加できるようにした方が、より多くの意見が出るのではないかと考えます。